5. 解説：日本の山・森林について

日本の「山」に関する表現について、奈良県の吉野山地では、山を村落から近く標高が低い順に「サトヤマ」「ウチヤマ」「オクヤマ」「ダケ」と区分されていた。

サトヤマ：集落の周囲の斜面にある畑や雑木林
ウチヤマ：焼畑を行う土地や薪炭林、桑畑
］里山：森林の 3 割、国土の 2 割

オクヤマ：材木を調達したり狩猟をしたりする山林
ダケ　　：最も標高が高い部分で原生林
］深山(みやま)

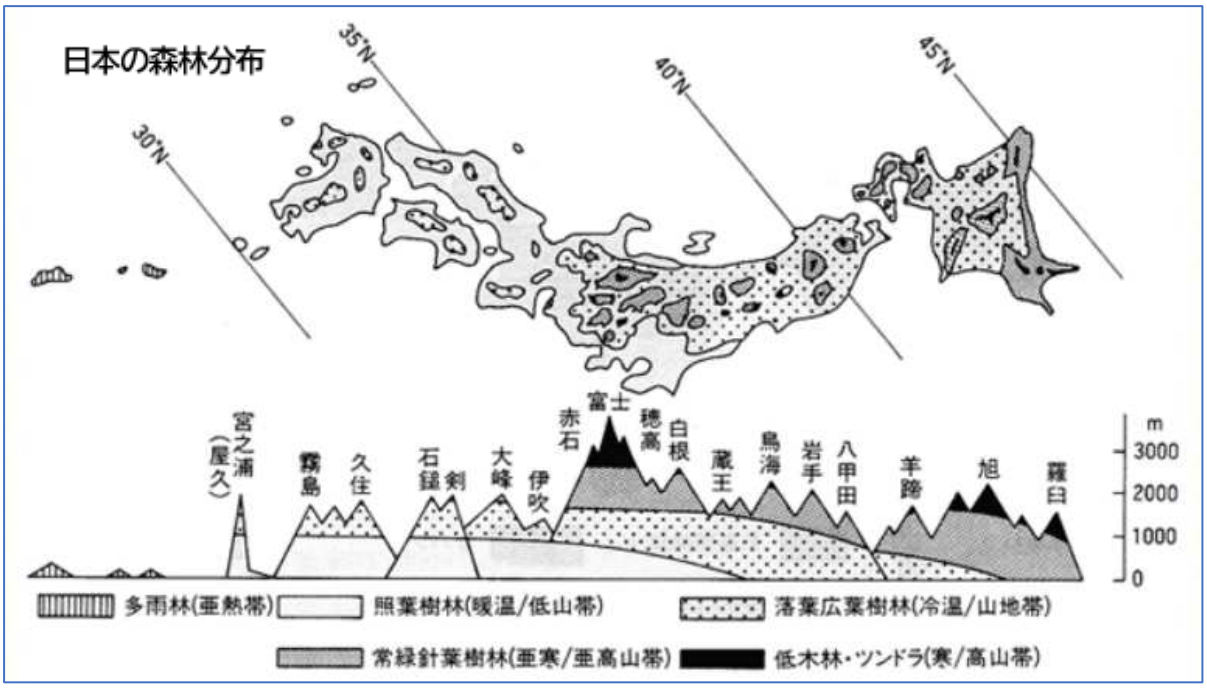
出典：佐々木高明『日本文化の多様性』 小学館 2009 年 P126-12 https://tinyurl.com/2awsdrc4

また、森林の「森」と「林」の違いは、下記のとおりである。

森：「盛り」を語源としていて、人が木を植えなくても自然に木々が「盛り」上がるように生い茂っている状態

林：「生やす」が語源で、人が特定の場所に特定の種類の木が生えるように手を加えたもの

出典：木がめちゃ生える日本　森の案内人が「今が有史以来、最も茂っている」という理由、YAHOO!ニュース、2019/8/16　http://urx.blue/T6T6



（補）森林：国土面積の 67%の内、5 割：天然林、4 割：人工林、1 割：無立木、竹林

出典：日本の森林分布、森林･林業学習館 https://tinyurl.com/23x5btlp

わが国の地方・地域の太宗の空間場（全国土の約 7 割）である森林域（深山・里山）が有効活用されず、今後は所有権の不明化の進展も懸念される状態にある。近年は、高齢化・担い手不足により、里山(含む果樹園等)の手入れ不足・放棄が拡大し、林相が変化（若齢林・低林 ⇒ 高齢林・高林、倒木・竹藪の拡がり）し、営農条件が悪化したり、 人手が入らない里山や隣接する耕作放棄地、庭先果樹の収穫放棄は格好の鳥獣生息域と化し、鳥獣害の拡大を将来している。鳥獣害対策を兼ねつつ、平場(農場、まち場)と連携した里山の多面低機能の再活用が待たれる。